

## 【巻頭言】

# 対人関係セミナーのこと

比治山大学大学院現代文化研究科附属心理相談センター  
センター長 塩山二郎

当大学院の心理相談センターが開設されて、3年目が過ぎようとしています。

今年度、平成18年度は日本臨床心理士資格認定協会の指定校を受け、晴れて、臨床心理士養成の大学院の訓練機関として機能することができるようになりました。正確には19年度からの認定ですが、遡及措置で17年度からの指定校として認定されました。

これにともない、当センター主催のセミナーを毎年開く計画がなされ、実現することになりました。

大学主催の研修会は「対人関係セミナー」と命名し、第1回は、「対応困難な事例の理解」というテーマで当大学の客員教授をお願いしている、帝塚山学院大学の氏原寛先生をお迎えいたしました。130名の参加者があり、このような研修会が、いかに社会の中で必要とされているかがわかりました。

対応困難というのは、近年特に目立つ動きとして、人中で急に怒鳴りだしたり、役所や病院の受付で攻撃的な物言いをしたりする人がいますが、そういう人とはどんな人か、どのように対応すればいいのかなどを考える内容でした。「ドラマシリーズ診療内科医涼子」の中の『トラブルメーカー』を全員で見て、境界性人格障害の問題、怒りに対する対応の問題などを話し合いました。氏原先生の経験豊かな話にみんな聞きほれて充実した時を過ごすことができました。

また、広島国際大学の上里一郎学長の音頭で、広島県内の指定校大学院で合同研究会を開催しようという案があり、19年度に計画しています。今のところ、参加校は、広島国際、広島文教とわが比治山大学です。33年前に京都、九州、広島の3大学院の研修会を始めたころを思い出しました。河合隼雄、前田重治、鎌幹八郎という錚々たる先生方を中心に院生、OBで2泊3日の研究会が始まったのです。それはもう、楽しいどころではありませんでした。そういう会が今、広島の地で、県内の指定校間で研修会を開き、互いに切磋琢磨しようというわけですから、感慨ひとしおです。心理臨床の世界は、他のどの業界でも同じこととは思いますが、どれだけ研鑽を積んだとしても、これでいいという世界はありません。生涯研鑽を積み続けることが必要な世界です。ですから、これからまたこつこつと研究会を続けていくことになるでしょう。でも、何か今から楽しみですね。